

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790100903		
法人名	医療法人社団 敬愛会		
事業所名	グループホーム 敬愛アネックス 2F		
所在地	福島県福島市太平寺兒子塚36番地		
自己評価作成日	令和3年1月15日	評価結果市町村受理日	令和3年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム階下に系列の医療機関が併設されており医療との連携が図れ、入居者の健康管理ができ、安心して過ごしていただける環境です。利用者様が望む事を優先し、その人らしく生活できるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. コロナ禍で外出を自粛しているため、動画を活用した体操やベランダでのレクリエーションの実施、誕生会や敬老会、季節に応じた行事等を取り入れ、食事を楽しんでいただきながら利用者の心身のフレッシュと気分転換を図っている。
 2. 運営法人が医療機関であり、同建物内に医院が併設されている。医療面で系列医療機関のサポートがあり、受診時や緊急時など、利用者が安心して適切な医療が受けられる体制がとられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を朝礼で復唱し、理念に心がけた、サービスを提供するよう努めている。	事業所理念を各階フロアに掲示し、朝礼で唱和しながら共有している。理念にある「人生の先輩として、利用者を敬う心を忘れないよう」を意識しながらケアに反映できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ケア会議に参加し、地域の情報交換に努めている。新型コロナウイルスの為、交流の機会が減っている。地域行事の参加や、ボランティアの受け入れもできていない。	地域自治会長や民生委員を務めた近隣の方より、地域の情報をいただきながら、地域との関わりを持てるよう努めている。コロナ禍以前は、お祭山車運行見物や買い物、公園等に出かけていた。昨年の課題であったボランティア等の受け入れを計画していたが、コロナ禍で実施できなかった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者家族様に認知症利用者の支援方法や、疑問に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回運営推進会議を開催し、課題を決めてそれについて話し合い、意見等を参考にしながらサービスの向上につながるよう努めている。新型コロナウイルスの為現在は施設職員のための会議としている。	運営推進会議は定期的な書面により、利用者状況や行事等活動状況、ヒヤリハット、職員研修、新型コロナ対策等を報告している。しかし、運営推進会議委員からの意見やアドバイス等をいただく取り組みは行われていない。	運営推進会議の開催方法(書面開催等)を検討し、委員には書面報告だけにとどまらず、会議開催方法の周知と委員から質問や意見、要望等を出していただき、それを運営に反映する工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福島市役所、長寿福祉課と必要事項の連絡や、運営サービスについて助言を受け運営している。	市担当者とは、利用者状況報告や介護保険制度の疑問点・解釈等について相談・助言をいただきながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に一度開催し、身体拘束の可能性がないか話し合い、そのような事がないように職員へ周知してもらっている。	身体拘束廃止委員会を定期的開催し、身体拘束となる行為や不適切な対応がないか話し合っている。玄関の施錠は、最終面会受付時間まで開錠している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修に参加し、資料を職員へ報告し、虐待がないか注意しながらケアをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者はいないが、管理者は日常生活自立支援事業、成年後見制度について理解に努めている。職員にも学ぶ機会を作っていくたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	適切に説明するよう努め、同意を得ている。改定等があった場合は家族様に連絡することになっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からの意見は都度傾聴し、出来る限り反映できるようにしている。家族様の意見、要望は都度お聞きし、それ以外も玄関に設置しているアンケート箱内容を運営推進会議で返答、反映できるようにしている。	日常生活の関わりや会話の中から利用者の思いや希望を把握するよう努めている。家族からは面会時、電話連絡時等に意見や要望を聞くよう努め、出された意見・要望を運営に活かせるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見等は管理者に聞ける環境になっている。提案の内容によって反映させている。	施設長と管理者は、職員が日頃から気軽に相談や希望・要望を言える職場づくりに心がけている。各種会議やミーティングで職員の意見や提案を聞き、運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各職員の評価制度や、処遇改善等を積極的に取り組まれて、働きやすい環境になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染状況を確認しながら行政の他、各協会が主催している研修、法人内研修への参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業他社との交流の機会が少ない為、今後交流をする機軸を増やす必要がある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面談時に、本人の要望や、不安などを聞き入れ、入所後も要望、不安を傾聴し、助言をするなど、信頼関係を築いていくよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期面談時に、家族の要望や、不安などを聞き入れ、入所後も要望、不安を傾聴し、助言をするなど、信頼関係を築いていくよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期面談時に、ニーズを確認し、利用者、家族の意向を尊重しながらも、本人の必要としているサービスを見極め、ケアプランに反映できるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の身体状況を把握し、利用者の生活能力に応じて、役割を持っていただき、共に暮らしているという環境作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族の意向や、希望を確認し、どちらかの意向に偏らないよう考慮してサービス計画をして支援していくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの為、外出、来所できていない状況である。	家族の協力で墓参りや外食、温泉、馴染みの美容室等に外出し、これまでの関係が継続できるよう支援している。現在はコロナ禍で自粛しているので、写真や家族からの要望でLINE動画を送り、利用者の元気な姿を見てもらい家族の理解を得られるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士は自ら関係を築いている。認知症の進行度合いによって、職員が間に入り関わりが持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時の見舞いや、契約終了後も、関連施設等の紹介や、相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントでご本人の思いを確認している。意思表示の困難な場合は日々の生活の中での表情や行動などからも利用者の思いや意向の把握に努めている。	居室担当者が、日常生活の関わりや会話などから、本人の思いや意向を把握するよう努めている。意思表示の難しい利用者からは、表情や行動から本人の思いを汲み取り、家族からの情報をもとに本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期面談時に、本人、家族から情報収集をしてアセスメントシートに記載している。日頃からの会話で生活歴や馴染みの暮らしを聞き取り、サービスに反映できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活活動記録シートや申し送り帳などから、個別の心身の状態を把握し、アセスメント、カンファレンスを開催し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から、本人、家族の意向を確認し、モニタリング、アセスメント、ケアカンファを実施して、現状に即した介護計画を作成している。	担当職員が日ごろの関わりや本人・家族の意向等を把握し作成した介護計画の介護記録をもとにカンファレンスを行い、介護計画を作成している。利用者の心身状態に変化があった場合は、現状に即して介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の詳細な経過記録が出来るよう心がけ、介護方法等変更あったときは申し送りを活用し、周知できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院や買い物代行等必要な支援は柔軟に対応できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で町内会長や民生委員より地域行事の案内を受けてたが、新型コロナウイルスの影響で地域資源の活用ができていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	建物内に併設される医院を、かかりつけ医とされている利用者様が殆どである。当法人以外の受診も可能であるが、その場合は家族様の対応となっている。契約時に説明、同意を得ている。	契約時に利用者・家族と受診について話し合い、殆どの利用者が同建物内の同法人医療機関をかかりつけ医としている。医療連携体制も確保されており、安心して生活が送れる環境が構築されている。同法人以外の医療機関を受診する場合は、家族対応となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、当法人の訪問看護ステーション利用し、健康管理、医療的ケアの連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合は定期的に訪問し、状況の確認をして早期退院に向けて、ケースワーカーと連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や終末期に向けた事業所の指針を説明している。、書面にて。家族の意向を確認し、書面にて同意を得ている。	契約時に「看取りに関する指針」について説明し、書面で同意を得ている。また、医師が回復の見込みがないと判断し場合には、医師より家族に説明があり、事業所での看取り介護を望むか、あるいは入院等家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。再度看取りについての同意書を得て、介護計画書を作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルは作成し、職員に周知しているが、救命講習を受けている職員が少数であり、初期対応の実践力を身に付けているとは言えない状態である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者(さくち医院)を中心とし対応をし、火災訓練を年二回実施している。地震、水害訓練について、消防署から助言を受け、地震を想定した訓練を実施した。	夜間想定火災訓練を2度実施し、地震を想定した避難訓練を消防署から助言を受け実施している。地域との協力体制は、事業所が3町会の分岐点に位置することから、現町会長からアドバイスを受けながら法人の医院と調整構築に努めている。米・水・缶詰類・携帯発電機等を備蓄している。	今年度は、コロナ禍で計画に沿った防災訓練が出来ない状況にあるが、来年度は消防署立会いの基、火災・地震・風水害等の避難訓練を地域の協力を得て、頻度を増やし実施して欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの性格や、生活歴を把握し、利用者の尊厳が損なわれないように、対応している。	職員が、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いに対応に心掛けている。これまで利用者が培ってきた経験や生活歴、性格等を理解し、日々の生活に活かしながら支援している。また、個人情報を守るため守秘義務を認識し、利用者に関する書類関係は事務所のロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聞き入れ、職員の押し付けではなく、利用者本位の自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先しすぎず、レクリエーションも無理には参加しなくてもいいようにしている。本人のやりたいこと、趣味を行えるよう、希望に沿って支援できるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容が来所し、希望される利用者様は散髪されている。美容室に外出し散髪されている方もいたが、現在は新型コロナウイルスの影響でできていない。衣類は本人に確認し、気候に合った衣類を着ていただけるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事前の口腔、軽体操を実施、食事毎に献立を発表している。行事等でお菓子作りを実施し利用者様にも参加して楽しんでいただけるようにしている。	メニューは同系列病院の管理栄養士が作成し、調理担当職員が調理し提供している。利用者は後片付け等を職員と一緒にしている。毎食の前に軽体操や口腔体操を取り入れ、咀嚼・嚥下の維持改善に努めている。敬老会等の行事では、2階ベランダで焼きソバ・海苔巻き・オードブル等を用意し、一緒に食べながら楽しいひと時を過ごした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立ができて、献立に沿って調理している。個々の食事、水分量の記録をし、カンファレンス等で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月、歯科衛生士から介護職員へ口腔ケアに関する助言をもらい、個々の状態に合わせた口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。失禁に対し本人の自尊心が傷つかないように配慮しながらケアを実施している。	利用者の排泄パターンを把握し、表情や仕草から排泄を察知しプライバシーに配慮しながらトイレへの声かけ・誘導・見守り等の支援を行っている。職員は、利用者がトイレでの排泄が出来る限り継続出来、生活への自信に繋がるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操、体を動かすレク等、運動をするよう心がけている。水分量の少ない利用者様には摂取していただけるよう声掛けしている。下剤は医師と連携し調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日と時間帯は決まっているが、本人が入りたくないときは日にちを変更したり、清拭、更衣する等、柔軟に対応している。	入浴は、週2回を目標としているが、利用者の心身状態を考慮し調整している。楽しい入浴となるよう職員との会話を大切にし、入浴剤の使用や季節感を味わって貰えるよう菖蒲湯等を振り入れている。身体的に入浴が難しい方には、機械浴や足浴、清拭、更衣等で対応、支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活習慣を優先し、本人の意思で居室で休んでいただいている。毎日体操や、レクリエーションを実施して、活動量を増やして夜間に安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬箱に説明書が保管されており、職員は薬の内容等を把握するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、本人の好きな事を把握するように努め、個別に行っていただけよう努めています。年間行事をレク委員会が企画し毎月実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクや、買い物など行っていたが、新型コロナウイルスの影響で本年度は実施できていない。	コロナ禍以前は、年間行事計画に沿って、花見や紅葉狩り等へ出かけ、日常的には買物や散歩、家族の協力を得て墓参りや外食等に出掛けていた。事業所2階のベランダを活用してレクリエーションを行い、気分転換とストレス解消を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員で預かり管理をしているが、本人の希望がある利用者様は、本人の意向を尊重し、所持、管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から要望があれば、電話対応している。毎月本人の様子を職員から手紙を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や、談話スペースにソファを置き、くつろげる空間を作っている。季節を感じていただけるよう季節に合わせた飾り付けをしている。	食堂や廊下等の共用空間に利用者が作成した季節を感じられる作品を飾り、ソファ等を配置し利用者がゆったりと落ち着いて過ごせる環境を整えている。清掃は専門の職員が行っており、温度・湿度・換気等の管理は、職員が定期的に行っている。気になる音や光等は、感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外が眺められる談話スペースで、利用者様が集まり談話されている。居心地の良い環境作りに心がけている。各個室なので独りの時間や、プライバシーが守られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	居室に、暖房、カーテン、寝具は備え付けられている。その他は利用者、家族様の自宅で使用していたもの等使用していただいている。	居室には、利用者と家族が相談のうえ自宅で使い慣れたテレビ・タンス・衣装ケース・家族や孫の写真・ぬいぐるみ・化粧セット等が持ち込まれている。利用者のプライバシーが守られ、安心し落ちついて生活が送れる空間が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態に関わらず、障害物がないよう安全な生活空間となるよう、配慮している。居室には花のプレートを付け自分の居室が分かりやすいようにしている。		